東 海 汽 船 株 式 会 社

【本社】　〒105-6891
住　　所 ： 東京都港区海岸１丁目 16 番１号
Ｔ　Ｅ　Ｌ ： (03)3436-1131(代表)
ホームページ： http://www.tokaikisen.co.jp/

【設立】　明治２２年１１月１５日

【資本金】　１１億円

【代表者】　取締役社長　山崎潤一

【事業内容】
・海運関連事業
・商事料飲事業
・レストラン事業
・ホテル事業
・旅客自動車運送事業

【従業員数】　３２９名

【運航船舶】　さるびあ丸（4992 ﾄﾝ）　橘　丸（5681 ﾄﾝ）　ジェットフォイル４隻（愛、虹、友、大漁）

【安全方針】　当社は、離島航路を担う運輸事業者として、本土と伊豆諸島間を安全確実に輸送する責務を有し、「安全運航」と「良質のサービスの提供」を通して社会に貢献することを、経営の基本理念としております。
この基本理念に則り、安全確保は最大のサービスであるとの基本意識に立ち、関係法令を遵守し、安全マネジメント態勢の下、安全最優先に全力をあげて取り組みます。

【船内労働安全衛生対策への試み】

１．安全マネジメント報告会議を毎月１回開催（グループ会社５社）
２．船舶職員会議や、船員との実務者会議を定期的に開催し安全衛生に関し話し合っている
３．各船当直前（超高速船にあっては朝始業前）乗組員に対しアルコールチェックを実施
４．各船より随時ヒヤリハット情報を収集し、安全マネジメント会議にて報告、対策を講じ月１回「安全レポート」として現場に周知
５．今年度の安全施策の推進事項として他社研修を行い、安全・衛生面について自社との比較改善を実施
６．外部機関にて実施する安全衛生講習に乗組員が参加

【会社の沿革】

明治 22 年 11 月 15 日	当時の東京湾内の海運 4 社が合併して、東京湾汽船として発足
明治 24 年 4 月	東京府の要請により御蔵島航路を開設、主に印鑑の材料となる柘植（つげ）材の輸送に従事した。
明治 40 年 5 月 25 日	東京府との間に契約を締結し東京府の命令航路として伊豆諸島定期航路が開かれる。
昭和 10 年 5 月 31 日	快速船橘丸（1772 ㌧）が竣工し、順次新造船を建造
昭和 16 年 12 月 8 日	太平洋戦争突入、橘丸ほか、芙蓉丸等主力船体が参戦
昭和 17 年 8 月 28 日	社名を「東海汽船株式会社」と改める。
昭和 20 年 9 月 21 日	終戦とともに、湾内、伊豆諸島航路運航の傍ら復員輸送に従事
昭和 25 年 7 月 25 日	東京湾納涼船運航開始
昭和 36 年 1 月	伊豆大島椿まつり開催
昭和 37 年 3 月 15 日	近代化第 1 船　あじさい丸(594 ㌧)就航以後、約 2 年ごとに新造船建造
昭和 53 年 4 月 10 日	東京ー三宅島ー八丈島航路　すとれちあ丸竣工
昭和 61 年 11 月 15 日	伊豆大島三原山噴火、島民約 1 万人島外避難、社船にて 7,407 名救援輸送
平成元年 11 月 15 日	創立 100 周年を迎える
平成 4 年 12 月 1 日	東京ー大島ー神津島航路　さるびあ丸（2 代目）4992 ㌧竣工
平成 14 年 4 月 1 日	東京ー大島ー神津島航路　超高速ジェット船　セブンアイランド就航
平成 23 年 3 月 11 日	東日本大震災発生、翌 12 日欠航するも 13 日には通常運航再開
平成 26 年 6 月 4 日	東京ー三宅島ー御蔵島ー八丈島航路　橘　丸（2 代目）（5681 ㌧）竣工

【業務内容】

当社は、東京・熱海から大島、三宅島、八丈島など伊豆諸島を結ぶ定期航路としてデイリー運航をしています。

平成 14 年からはジェットフォイルを導入し伊豆大島を 1 時間 45 分で結ぶサービスを行っています。

また、貨物輸送にも力を入れ、島民の生活路線として物資輸送にも冷凍運搬を増やすなど改善を施し、島への安定供給に努めています。

新造貨客船　橘丸　　5681 ㌧

旅客定員　沿海：865 名　近海：596 名

さるびあ丸　　4992 ㌧

旅客定員　沿海：1546 名　近海：514 名

ジェットフォイル　セブンアイランド友　164 ㌧

旅客定員　255 名　速力 43 ノット

ジェットフォイル　セブンアイランド大漁　165 ㌧

旅客定員　255 名　速力 43 ノット

【事務局から一言】

当社は東京・熱海と伊豆諸島を結ぶ島民の生活定期航路として、明治時代より今日まで運航しており重要な役割を担っています。

取締役船舶部長の櫻井様には、当支部の運営委員を長年にわたり務めていただいており、支部の船員災害防止活動にご尽力いただいております。

株式会社ダイトーコーポレーション

＜会社概要＞

会社名	株式会社ダイトーコーポレーション
会社設立	1934 年（昭和 9 年）9 月 3 日
資本金	8 億 4,250 万円
主たる株主	川崎汽船株式会社
本社所在地	東京都港区芝浦 2-1-13
支店所在地	横浜　千葉
事業内容	コンテナターミナル事業、倉庫事業、曳船事業、海上防災・警備事業、不動産事業、青果事業、自動車船荷役事業、在来船荷役事業、国内物流事業、船舶代理店事業、海貨・輸出入通関事業、中国船社営業代理店事業、海外事業
代表取締役社長	松川　一裕
従業員数	425 人（陸員 323 名　船員 102 名　2015 年 4 月 1 日現在）
ＨＰ	http://www.daitocorp.co.jp/

＜企業理念＞

一. 内外の法令とその基盤となる社会規範を遵守し、顧客や社会から信頼される企業、役職員であることを目指す。

二. 港湾運送事業及び関連事業（倉庫、曳船等の事業含む）を通じて地域社会の発展に貢献する。

三. 労使相互信頼を基盤に堅実な事業経営を行い、長期安定した経営を目指す。

四. 顧客サービスの原点は現場にあることを認識し、安全かつ確実な作業を目指す。

五. 役職員は自己の資質の向上に励み、創意･工夫とチームワークをもってフェアな企業活動を行う。

六. 企業活動の全般を通じて豊かな社会づくりと地球環境への配慮に務める。

＜曳船事業＞

横浜、川崎、千葉、清水港に曳船を配備し、船舶の港内航行の為の進路警戒業務、離着岸の補助作業などに従事しています。
当社は 1952 年千葉港で曳船サービスを開始し、以来 60 余年の間、横浜港、川崎港と事業を拡大しました。
そして近年では清水港、海外事業としてフィリピン(マニラ港、バダンガス港でも曳船事業を展開しています。
全曳船に最新型高出力エンジンを採用、また AIS(船舶自動識別装置)をはじめとする最新航海計器・設備を装備し、如何なる状況下においても安全で効率的な曳船サービスをご提供できる体制を整えるとともに、ISO9001 に支えられた徹底した安全運航管理体制により、高品質な曳船サービスをお客様に提供することで信頼にお応えしています。

＜海上防災・警備事業＞

いち早く海上汚染防止、防災関係の業務に取り組み、防災船艇を配備しています。特に防災曳船には高性能の放水装置とドライケミカル装置を完備し、荷役警戒等の海上諸作業に当たっています。千葉港では海上災害防止センターより千葉基地の代行を委託されており、2,000m のオイルフェンスを格納した防災艀を配備しています。また石油コンビナート等災害防止法に基づく海上共同防災組織として、市原・袖ヶ浦、千葉、市川・船橋の各地区からも業務を委託されオイルフェンス展張船を配備し、海上防災業務に対処しています。
創業以来、内外の法令とその基盤となる社会規範を順守し、お客様や社会から信頼され、お客様サービスの原点は現場にあることを認識し、安全かつ確実な作業を目指すことを基本理念として、幅広くサービスを提供してまいりましたが、平成 23 年 5 月、千葉県公安委員会から警備業の認定を受け、これまで物流総合企業として、特に海上防災事業で培ったノウハウを生かした警備艇による海上警備・埠頭警備・舷門警備などの港湾警備により、より一層のお客様のニーズにこたえた、質の高い「安全」「安心」の提供を目指しています。

＜船内安全衛生対策への取り組み＞

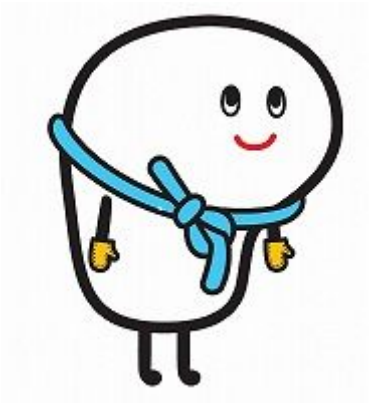
安全目標（安全方針）：安全運航の徹底による事故０(ゼロ)の徹底　に基づく安全施策の実施。実施内容は以下の通り。

・船機長会議（年 6 回）：方針管理 重点施策の指示確認及び事故事例による注意喚起、安全意識の高揚。
・安全衛生委員会（年 6 回）：船内安全衛生全般に係る議案を検討。
・発航前安全確認（日常管理）の実施と点検結果の報告（月一回）
・毎月第 2 月曜日を安全衛生デーと定め、安全衛生デー点検表による項目別 3 種類のチェック（全 62 項目）を実施し、安全衛生、健康管理、事故予防に努める。（月一回）
・安全パトロールによる各種訓練の励行。安全衛生、救命保護具、消防設備等の点検、非

　常用操舵訓練及び密閉区画救助操練等を実施。（月一回以上）
・国土交通省関東運輸局の運輸安全マネジメントシステムへの取り組み。

＜当社キャラクターの紹介＞

当社の創業８０周年記念事業として、独自の愛称（ニックネーム）とイメージキャラクター「つなぐちゃん®」を制作しました。デザインは当社社員・家族より募集し、曳船船員家族の作品が選考され、船と岸壁を繋ぐビットからデザインし、船と陸、現在と未来、日本と世界、人と人、様々な繋がりを、延いては、未来を担う子供たちと港の仕事のつなぎ役として、正に「新時代へ物と心のハーモニー」を象徴するデザインです。



【事務局から一言】
当社の常務取締役の今井様には、今年の４月より関東支部の支部長にご就任いただきまして、当支部の船員災害防止活動の先頭に立ってご尽力をいただいております。
　また、常務取締役千葉支店長の長谷部様にも、千葉地区支部長として務めていただいており、当社には船員災害防止活動に積極的に貢献して頂いております。

関東支部

株式会社 ウィングマリタイムサービス

本店	〒220-8113 横浜市西区みなとみらい 2 丁目 2-1 横浜ランドマークタワー13 階
千葉支店	〒260-0023 千葉市中央区出洲港 15 番 36 号
設立	1959 年（昭和 34 年）
資本金	４億 9,000 万円
株主	日本郵船株式会社
従業員数	199 名（陸上 44 名、海上 155 名）（本年 6 月現在）
代表取締役社長	山下　俊憲
ホームページ	http://www.wingmsc.co.jp/index.html
事業内容	曳船業　・　警戒船業　・　曳船貸渡業

曳船業

24 時間体制で、横浜・川崎・千葉港の入出港船舶に対する曳船補助作業を行なっています。最新消火設備を搭載した曳船で、緊急時の港の安全確保に貢献します。

警戒船業

24 時間体制で、東京湾入り口の浦賀水道航路から中ノ瀬航路まで、海上交通安全法により指定された航路について、北航、南航する巨大船および危険物積載船に対し、高性能化学消火設備を装備した高速船でエスコート（警戒）作業にあたります。

会社沿革とトピックス

昭和 34 年 10 月	株式会社日本海洋社設立
昭和 50 年　9 月	内閣総理大臣表彰（第十雄洋丸の救助活動に従事した船長と乗組員対象）
平成 20 年　3 月	日本郵船 100％関連会社
平成 21 年　1 月	株式会社日本海洋社と宝洋海運産業株式会社を統合し現社名に変更 ISO 9001、14001 の認証取得

平成 24 年　7 月　タグボート用操船シミュレータ運用開始
平成 25 年　3 月　ハイブリッドタグボート“翼”就航
平成 27 年　8 月　LNG 燃料タグボート“魁”就航予定

企業行動憲章

１．法令を遵守し善良なる社会倫理規範にもとることのないよう行動する。市民生活の秩序や安全に脅威を与える反社会的団体には屈することなく毅然とした態度をとる。
２．当社が営業活動を展開する地域において、社会性・公共性の高い曳船業務を提供し、安全と機能性を担保しその発展に努力する。
曳船の運航にとどまらず、環境問題を惹起しないよう努力する。
３．合法且つ公正な企業運営を通して、適正な利潤を確保し株主に報いるとともに、社員も人格および個性を尊重し、良好な職場環境の保全に努める。

環境方針

１．当社の事業活動が地球環境に与える影響を考慮し、環境目的・目標を定め、これらを定期的に見直し環境保全に努める。
２．省資源・省エネルギー等に取り組み、温室効果ガス等の排出を抑制する。
３．曳船やエスコート船にかかわる環境負荷をできる限り少なくすることに努める。
４．社内広報活動等を通じて社員一人ひとりの環境意識を高め、この方針を浸透させる。
５．環境マネジメントシステムの有効性を継続的に改善し、環境保護に努める。

AZ(アクシデントゼロ)運動

毎月初、運動報告を発信し安全運航を継続しています。報告内容は以下の通り。
１．無事故継続日数（前回継続中断原因付記）
２．職務傷病ゼロ継続日数
３．年間目標　(本年度は“労働災害ゼロの実現”)、
４．月間目標　(本年 5 月は“電動工具・調理器具による事故防止”)
５．月間標語（本年 5 月は“適度な運動の励行と十分な休息、体調の自己管理をしっかりやろう！）（各船持ち回りで毎月決定）

【事務局から】

御社の山本常務取締役様には、平成 25 年度から 2 年間にわたり、弊協会支部の支部長を務めていただき、船員災害防止活動の先頭に立ってご尽力をいただきました。
　どうか今後とも、船員災害防止活動にご理解とご協力を賜りますようお願い致します。

WMS
Hybrid
7
TSUBASA

会員の紹介

北陸信越支部

粟島汽船株式会社

【本　社】　〒９５８－００６１
新潟県岩船郡粟島浦村３番地
TEL0254-55-2131
【代表者】　代表取締役社長　本保建男
【設　立】　昭和２８年５月１日
【営業種目】海上貨客運送業
【運航船舶】２隻
フェリーあわしま（626ﾄﾝ）旅客定員 314 名　awaline きらら（184ﾄﾝ）旅客定員 170 名
【従業員】　23 名（うち船員 18 名）

フェリーあわしま

awaline きらら

【業務紹介】

粟島汽船株式会社は、昭和 28 年に設立され、本土（岩船）と粟島とを結ぶ唯一の交通手段であり、公共性が高く、住民の生活安定と経済発展のための航路であります。島民や観光客の安全第一のため、日々の作業の安全確保と有事の際にも的確な対応をとるため訓練を積み重ね社員一同士気を高めております。

粟島の全景

わっぱ煮

粟島は周囲 23ｋｍという小さな島ですが、変化に富んだ海岸線や岩礁、起伏に富んだ地形など豊富な景観が楽しめ、春から秋にかけ多くの観光客が訪れます。日本海の荒波に削られてできた複雑な岩礁は、多くの魚たちの絶好の棲家で釣りのポイントは無数にあります。磯からでも真鯛など大物が狙えるのが醍醐味です。また新鮮な魚を使用する名物「わっぱ煮」は“わっぱ”という器に焼いた石を入れる豪快な漁師料理も味わうことができます。今後も皆様から信頼される安全で快適な離島航路を目指し粟島の発展に貢献していく方針です。